

令和4年度 6月定例校長会 教育長講話 要約

(オンラインで開催)

1. 熱中症対策と新型コロナウイルス対応について

新型コロナウイルスの感染者数は、5月のGW明けからは全国的に減少してきており、本市でも同様の傾向が見られます。しかし、市内の小中学校での新規感染者は、6月6日(月)～12日(日)では37人で1日平均5.2人、直近の6月13日(月)～19日(日)では47人で1日平均6.7人でした。週により多少はあり減少してきていますが、引き続き、感染予防へのていねいな対応が必要ですので、このことについては引き続き、よろしくをお願いします。

一方では、こうした中、熱中症による児童生徒の救急搬送が各地で相次いでいます。皆さんもすでにご存じかと思いますが、6月8日には神戸市の小学校で体育の授業中に12名が熱中症とみられる症状を訴え、6人が病院に搬送されました。報道によると、授業中は水分補給の時間を設けるほか、「マスクを外してもよい」との指導もしていたようですが、児童の半数はマスクをしたまま運動をしていたとのことでした。

国では、5月24日の通知で、マスクを着用しない場面として、体育の授業、運動部活動中、登下校時等の場면을示していましたが、こうした各地での熱中症発生の事態を受け、改めて国は6月10日(本市からも6月13日)に通知を出し、熱中症は命にかかわる重大な問題であることから、熱中症対策を優先し、特に熱中症のリスクの高い場面では「マスクを外す指導」をするよう、指示しています。もちろん、マスクを外す機会が増えることで、不安を抱く子どもへの配慮も必要ですが、まずは子どもの命を守るということを第一優先において、適切で丁寧な指導をお願いします。

2. 学校における子どもの様子について

新学期が始まり2か月が経過し、子どもたちは入学当初の緊張感もやわらぎ、学校生活に慣れてきたころだと思えます。子どもたちが一生懸命学習に取り組んでいる様子や、楽しそうに行事に参加したり活動したりしている様子については、学校のホームページで日々発信していただいております。私も昨日より学校訪問をする中でも感じています。

このように新しいクラスに慣れてくる時期は、一方で悪口や喧嘩、トラブルやいじめ事象も起こり始める時でもあります。自分の何気ない言葉や友達との会話の中に、相手を傷つけている言葉が含まれている場合もあります。緊張が解け、一人一人の地が出る時期だからこそ、子どもたち一人一人の様子にアンテナを高くして、小さな情報もしっかりとキャッチし、管理職に情報が届くように教職員へは指導をお願いします。保護者へは、その状況を正確に把握した上で、対応することが学校への信頼を寄せる第一歩となります。

また、先日の読売新聞には、学習端末によるいじめ（いわゆる「ネットいじめ」）の調査結果も掲載されていました。本市でも、一人1台のタブレット端末を子どもたちが活用しています。なりすましや相手を傷つける書き込みなどがないか、再度、情報モラルの徹底もお願いします。

多くの学校では、この時期に教育相談が行われています。子どもと向き合う時間を大切に、子どもたちの声や思いをしっかりと受け止めてください。6月3日を目途に、本市の「生活調査アンケート」を実施しました。また、県教育委員会からは、今月末に「こころといじめのアンケート」が実施されます。こうしたアンケートを通して、教職員が子ども理解を深め、いじめの早期発見、早期対応、再発防止と未然防止の取組を学校総がかりで進めていただくようにお願いします。

3. 「学校の当たり前を見直す」について

学校では、

- ・ さくら連絡網の活用による、保護者連絡のペーパーレス化
- ・ 運動会などの行事の見直しによる、効率化とスリム化
- ・ ICT活用による、職員会議や職員朝礼の持ち方の工夫

など、さまざまに取り組んでいただいています。

新型コロナウイルス感染症の感染状況にもよりますが、制約がさらに緩和され、今後少しずつ学校の教育活動の幅が広がっていくことが予想されます。しかし、それは、学校をコロナ禍の前の教育に戻すということではありません。この2年間、取り組んできた「当たり前を見直す視点」と、「ICTを活用した学びのスタイル」を一段と推し進め、課題解決学習に向けて授業の在り方や教員の役割も新しい時代に見合った中身へと変えていき、さらなる学校教育の充実に向けて取り組んでください。

こうした、これからの教育の方向性は、国の総合科学技術・イノベーション会議において「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」としても示されています。「政策パッケージ」では、子どもたちが多様化するなかで、紙ベースによる一斉授業は限界にきており、今後はICTも活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく必要があるとしています。

子ども主体の学びはもちろんのこと、「学年・学校種を超える学び」や「教室以外の空間での学び」といったことに対しても提言がなされています。この「政策パッケージ」については、これからの教育の姿を示したものですので、ぜひ、内閣府のホームページで確認いただき、それぞれの学校で共有してください。

最後に、梅雨の季節に入り蒸し暑い日が多くなってきました。改めてになりますが、熱中症予防の徹底を図っていただき、子どもたちの健康と命を守ることはもちろんの事、教職員の健康管理にも気をつけて学校経営を進めてください。